



8月2日、100万人目の買い物客となった片岡則之さん・さえさん夫妻（倉敷市）。2人には塚常会長から記念品が贈られた。

8月4日には、100万人達成の記念行事がサンロード吉備路の中庭で開かれ、片岡さんには、副賞として、ペア北海道旅行がプレゼントされた。また、達成記念にこの日から約1週間、福袋が販売されたり、来訪者にモモジュースや冷たい甘酒が無料で振る舞われたりした。

平成17年5月8日に10万人を達成。このころから、毎日の営業となり平成19年7月5日には50万人に。今年4月10日には90万人を超え、100万人へのカウントダウンに入っていた



100万人達成を記念して、サン直広場ええところじゃでは「サン直ぼっけえ音頭」を制作。店内やイベントで使うとのこと。作詞はサン直の会員でもある平田元恵さん（横谷）、作曲は村上常生さん（清音柿木）さん。「商品同様、音頭も総社市産です」とにっこりする2人。「サン直の良いところを歌詞に取り入れ、子どもからお年寄りまでが歌いやすい歌詞にしました」と平田さん。村上さんは、「親しみやすいリズムの音頭です」と、話してくれた



**■サン直広場ええところじゃ** [サンロード吉備路内]  
 営業時間 毎日、午前9時から午後5時まで  
 （11月から3月までは、午後4時まで）  
 取扱商品 野菜、果物、花、加工品、工芸品など  
 問い合わせ ☎090-6832-6990（代表者）

1000人を超えることもある人気の直売所です。「新鮮さと、安全・安心を一番にやってきた。お客さんの期待を裏切らないようにしたい」。副会長の本安環さん（下倉）は力を込めて話します。

商品棚に並ぶ農産物や加工品を見ながら塚常会長は、「お客さんに喜んでもらえるよう、多彩な農産物が並べられるよう充実を図りたいし、加工品の品目も増やしたい」と、お客さんの満足度を高め、レベルアップへの意欲を話してくれました。

サンロード吉備路が開業した翌年の平成16年4月24日に営業開始。オープンから昨年3月まで会長を務めた秋山新一郎さん（門田）は、「オープン当初、思った以上のお客さんで、商品をそろえるのに苦労した」と振り返ります。

組合方式で運営され、商品を出荷する登録農家（会員）は、オープン当初の約130人から、今では約220人で構成する組合に成長しました。年間を通じて、大半の会員が農産物や加工品を出荷。3列ある商品棚には、総社産の野菜や果物、加工品などが所せましと並んでいます。「会員同士が切磋琢磨し、いい意味での競争が起き、いい商品が並ぶようになった」と、秋山さんは言います。

果物や加工品などの季節の物も含め、「ないものはない」というような品ぞろえです。近年では、1日平均600人から700人のお客さんが訪れ、週末には

100万人を超えました。100万人目は、片岡則之さん・さえさん夫妻（倉敷市）。片岡さんには、同直売所の塚常保会長（日羽）から、桃の詰め合わせと花が贈られました。「驚きました。地元のお客さんが安く手に入るの週末によく来るんです」と、片岡さんは笑顔で話してくれました。

サンロード吉備路が開業した翌年の平成16年4月24日に営業開始。オープンから昨年3月まで会長を務めた秋山新一郎さん（門田）は、「オープン当初、思った以上のお客さんで、商品をそろえるのに苦労した」と振り返ります。



# サン直広場

## ええところじゃ

# 100万人突破！

買い物客が100万人を突破した「サン直広場ええところじゃ」。お客さんに喜ばれる直売所を目指す関係者の声や、100万人達成を記念して作られた音頭などを紹介します。